

士別市まちづくり懇談会（朝日地区） いただいたご意見

■日時：令和 7 年 7 月 29 日 午後 6 時から

■会場：朝日総合支所 2 階中会議室

■市参加者：渡辺市長、泉山教育長、大橋総務部長、三上市民部長、東川健康福祉部長、坂本経済部長、藪中建設環境部長、丸生涯学習部長、池田経営管理部長、増田企画課長、萩田企画課副長、企画課職員

■市民参加人数：17 人

（1）総合計画の基本的な考え方について【資料 1】

■ご意見 1

- ・旧朝日町と合併して 20 年になるが、新しい計画の中で、朝日町の持続的な発展に関する市長の「中心的な考え方」はどのようなものか。

■回答 1

- ・具体的な施策はこれからの協議になるが、基本は対等合併の理念に基づき、朝日地区の住民の意向を聞きながら、市全体として理にかなう計画を作ることが重要だ。

（2）持続的なまちづくりについて【資料 2】

■ご意見 1

- ・示された計画はすべてがマイナス思考だ。この街にいる意味がなくなってくると憤慨している。何一つ前向きに進もうとする計画がないではないか。合併して 20 年経った結果がこれでは、本当につまらない街になってしまう。
- ・財政の問題ではないと言うが、結局は財政の問題だろう。それに、道路のセンターラインが消え、草刈りもされていない。事故があったら責任を取れるのか。廃止した施設の解体すらできていない。我々に夢を与えるような行政運営をしてほしい。

■回答 1

- ・今回の計画はあくまで既存の施設や事業の「整理」が目的であり、新しい事業などの未来に向けた計画は、別途策定中の「総合計画」でお示しする。朝日スキー場の存続については、安全性を担保することが難しく、現段階では困難だ。

■ご意見 2

- ・朝日町からプールとスキー場がなくなれば、今の小中学生の行き場所がなくなってしまう。各公民館は地域のコミュニティの核であり、災害時の避難所でもある。それがなくなると、災害時に中央地区以外に住む住民は無視されるのかと寂しく感じる。「対等合併」だったはずなのに、なぜ朝日町の住民ばかりが我慢をしなければならないのか。
- ・年配の方向けのパークゴルフ場は維持されるのに、なぜ子供たちの施設がなくなるのか。世代間で不公平ではないか。プール廃止にあたり、実際に利用している子供たちの声を直接聞くべきだ。毎日7人が利用しているという事実をどう考えているのか。使える限りは存続するという方向性も検討してほしい。
- ・統合ありきではなく、もっと工夫ができるはずだ。朝日スキー場を「競技の拠点」、日向スキー場を「楽しむスキー場」として役割分担させてはどうだろうか。競技用に特化すれば、リフトの仕様を見直してコストを抑え、存続できる可能性があるのではないか。2つのスキー場の特色を活かす道を考えるべきで、それをしないのは非常にもったいない。

■回答 2

- ・朝日スキー場のリフトは設置から45年が経過し、安全な運行を保証するのは限界に来ている。掛け替えには7億5000万円程度かかり、財政的にも不可能だ。プールについても、老朽化が進み、今後の大規模な更新費用を考えると存続は困難と判断した。
- ・子どもたちから直接声を聞く機会は設けてはこなかった。子供たちにどういう影響があるのかを含め、関係部署と再度協議していきたい。

■ご意見 3

- ・天塩岳の水道が、山開きから1ヶ月以上経っても使えない。登山者が本当に困っている。これは管理不行き届きではないか。市長はご存知か。
- ・また、天塩岳の登山道は荒れ、市民の森の植樹林は間伐されずに95%以上が倒木している。地域の財産が放置されている。さらに、郷土資料室への予算が年間10万円しかない。10万円で一体何ができるというのか。

■回答 3

- ・天塩岳の水道については、業者の対応が遅れており、ご不便をおかけしている。早急に復旧させる。登山道や森林の状況については、承知していなかった。調査し、対応を検討する。
- ・共同資料室の活動の重要性は認識している。皆様のご尽力で運営されていることも承知しており、今後のあり方について、引き続き協議していきたい。